

さいたま市長定例記者会見

令和4年3月3日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社、産経新聞さん、進行をよろしく願いいたします。

○ 産経新聞 3月の幹事社、産経新聞と申します。よろしく願いいたします。  
それでは、本日の記者会見の内容につきまして、市長のほうから説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を行いました。このことは、武力行使を禁ずる国際法の深刻な違反で、国連憲章の原則に反する行為であり、国際社会の平和と秩序を脅かすもので、断じて許されることではありません。

私が生まれて初めて海外へ行った20歳のとき、ボランティアとして働かせてもらったタイの難民キャンプで、カンボジアやベトナムでの内戦や紛争による戦乱から逃れてきた人々から、身近な人の命が失われていく、その悲しみや苦しみを聞きました。「地球上から戦争と飢えをなくしたい」、それが私の政治家としての志の原点であり、今も変わることはありません。

このたびのロシア軍による攻撃やウクライナへの主権侵害に強く抗議するとともに、ロシア軍の即時撤退と国際法に基づく誠意ある対応を強く求めます。

なお、ロシア政府に対し抗議の意思を伝えるため、本日、プーチン大統領宛ての抗議文を、在日ロシア連邦大使館へ送付しました。

さらに、ウクライナ及び周辺国への救援活動を支援するため、本日から各区役所に救援金箱を設置しました。お寄せいただいた救援金は、日本赤十字社を通じて救援活動の支援に充てられますので、市民の皆様にはぜひ御協力をお願いしたいと思います。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

## 市長発表：議題1「本市の新型コロナウイルス感染症の状況について～今後の新型コロナウイルスワクチン接種事業～」

まず、議題1、「本市の新型コロナウイルス感染症の状況、今後のワクチン接種事業」について御説明させていただきます。

まず、本市の感染状況についてです。3月1日時点で市内の検査で陽性が判明した方が累計で6万1,028人、調査中を含む感染経路不明者の割合が62.8%、2月28日現在の陽性率は52.3%となっております。

先週1週間の新規陽性者数については、917人で、先々週と比べますと662人減少しています。

週別の新規陽性者数の推移については、こちらのグラフを御覧いただきたいと思います。2月中旬から減少に転じておりますが、その後は緩やかな減少傾向となっております。

また、日別の新規陽性者数につきましては、こちらの左上のカレンダーのとおり、今週に入っても1,000件前後の発生が続いております。

次に、市内居住者の感染傾向について御説明します。市内居住者の2月28日時点の「入院」、「宿泊」、「自宅」を合計した療養中の方は、1万3,054人となっております。前週の2月21日から503人減少しております。

自宅療養者につきましては、2月上旬から中旬にかけての感染のピークから2週間が過ぎたことから、減少に転じたところです。

次に、市内居住者の直近4週間における年代別の内訳についてですが、50代以下が約9割を占めております。また、10代以下の割合が増加傾向となっております。

本市の感染状況は、ピークは過ぎるも緩やかな減少傾向にとどまり、依然として多くの新規陽性者が確認される状況にあることから、感染の長期化や再拡大が懸念されるところです。

本市としては、療養者の皆様の健康観察をしっかりと行うことができる保健所体制を維持するとともに、感染防止対策の普及啓発に引き続き努めてまいります。

市民の皆様には大変な御不便をおかけいたしますが、一日でも早くこの

感染拡大に歯止めをかけるために、基本的な感染防止対策の徹底やワクチン接種の促進に御協力いただきますようお願いいたします。

次に、本市の新型コロナワクチンの接種状況について御説明します。3月3日時点での接種対象の接種済割合につきましては、1回目が86.9%、2回目が86.3%、そして3回目につきましては、接種券の発送数としては、55万1,319件、接種済人数は27万9,167人で、本日時点での接種対象者の接種済割合は、この24.8%となっております。

ワクチンの追加接種につきましては、オミクロン株による感染者の多い日々が依然として続いており、接種時期の前倒しや接種枠の拡大、市内全区での集団接種会場の開設など、早期に進めるように取り組んでおります。

現在、市が受付しております3月の予約状況を見ますと、ファイザーについては100%近い予約となっておりますが、モデルナについては3月前半は約64%、また後半はまだ16%で、予約枠に余裕がある状況です。

そのため、少なくとも当面の間は、国のワクチン供給スケジュールによると、今後もファイザーについては十分な供給量が示されておりませんので、ファイザーよりもモデルナの予約枠が多くなるので、ファイザーの予約は取りづらい状況が続くものと考えられます。

一方で、ワクチンの効果についてはファイザー、モデルナ、いずれのワクチンでも追加接種を受けると感染予防効果、あるいは重症予防効果を高めることやその安全性が確認されております。本市におきましても、2月にはファイザー、モデルナともに、多くの方々に接種を受けていただいております。

市民の皆様におかれましては、ワクチンの種類にかかわらずスピードを優先して、早く打てるワクチンの接種を御検討いただきたいと思いますと思っております。

続きまして、5歳から11歳の小児へのコロナワクチンの接種について御説明します。本市では、2月28日に約8万2,000件の接種用クーポン券を対象の皆様へに発送しました。

3月1日には、一部医療機関で接種を開始しまして、現在基礎疾患を有する方を先行して予約の受付を行っております。

3月9日以降は、段階的に予約対象を拡大し、3月14日から市内97の

医療機関で接種を開始してまいります。

小児におきましても、中等症や重症化する事例が確認されております。重症化リスクの高い基礎疾患を有する方については、国におきましても特に接種を受けることが勧められております。接種に当たりましては、あらかじめ、かかりつけ医などとよく御相談いただきながら、御検討をお願いします。

現在、感染者全体に占める子どもの割合が多い状況が続いております。ワクチン接種は、強制されるものではないためワクチン接種による効果と安全性、副反応について十分御理解の上、判断していただくことが大切です。

まず、ワクチンの効果については、これはオミクロン株が流行する前のデルタ株などに対するデータですが、2回目接種後7日以降の発症予防効果は90.7%とされております。

一方、副反応につきましては12歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱など、様々な症状が確認されておりますが、現時点では安全性に重大な懸念は認められていないとされております。

小児の接種につきましては、保護者の皆様に向けて、小学校や幼稚園、保育所などを通じてお知らせを配付しております。また、市のホームページなどでも随時最新の情報をお知らせしてまいります。

これらの情報も参考にしながら、ワクチン接種による予防効果と副反応のリスクについて正しく理解していただいた上で、接種の御検討をお願いしたいと思っております。

## 市長発表：議題2「新しい市民会館おおみやが開館します」

続きまして、議題の2です。大宮駅東口大門町2丁目再開発地内に機能移転を進めてまいりました、市民会館おおみやが令和4年4月1日に新たに開館することについてお知らせします。

現在の市民会館おおみやは、昭和45年1月に開館して、52年もの間、市民の皆様にご親しまれてまいりましたが、この3月末に閉館することになります。

新しい市民会館おおみやは、「さいたま市文化芸術都市創造計画」の中で、

市民の主体的な文化芸術活動を支える中心的な役割を担う「拠点施設」と位置づけております。これまで以上に、多様なニーズに応える文化芸術活動の場として進化した市民会館おおみやを紹介します。

まずはじめに、大宮駅周辺のまちづくりについて説明します。東日本の玄関口となる大宮駅周辺地区では、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」に基づきまして、GCS構想、公共施設再編など、様々なまちづくりを進めております。

市民会館おおみやの移転は、ビジョンで掲げる優先的に取り組むべきプロジェクトの中で、複合的な事業促進による「おもてなしまち再生」、公共施設再編による「連鎖型まちづくり」の一環として位置づけられております。

この市街地再開発事業は、平成25年の都市計画決定から始まり、本市は施行者の一員として地元権利者の皆様とともにまちづくりを進めてまいりました。昨年10月、関係者の皆様の御尽力により、大宮駅東口のまちづくりのリーディングプロジェクトとして建築工事の竣工を迎えることができました。

そして、大宮駅東口で初となるこの市街地再開発事業「大宮門街（おおみやかどまち）」が順次オープンしてまいります。

ブランドコンセプトは、「ゆきあうカド 人つなぐマチ」。商業、業務、公共施設と複数の機能が入居する複合施設となっており、それぞれの機能が有機的に作用することで、周辺地区にもにぎわいが波及していくことを期待しております。

今後も大宮駅周辺では、大規模なまちづくりを控えており、本事業を皮切りにGCS構想をはじめとした大宮駅周辺のまちづくりを一層加速させ、東日本の中核都市としてさらなる発展を目指していきたいと考えております。

それでは、市民会館おおみやの移転について説明します。

まず、市民会館おおみやの移転に当たり、移転前の課題は三つございました。一つ目は施設の老朽化、二つ目は耐震性の不足、そして三つ目は館内バリアフリーへの対応です。

移転により、課題が解消されることに加えて、既存機能の向上や新機能

の導入により、市民の文化芸術活動の促進、市民の文化芸術活動の場の充実、また駅前立地による利便性の向上及び本市の文化芸術発信力の強化が期待できると考えております。

これにより、市民の文化芸術活動を支える中心的役割を担う拠点施設にふさわしい施設に生まれ変わったものです。

新しい市民会館おおみやの概要について御説明します。愛称は、R a i B o C H a l l（レイボックホール）です。愛着を持って利用いただくために、市民会館おおみやという名前ではなく、愛称を市民から募集させていただき、決定したものです。

大宮地域の文化資源であります鉄道、盆栽、漫画の頭文字からの造語です。

施設の概要は、御覧のとおりとなっております。大宮駅東口から徒歩約3分の位置に立地しており、「大宮門街」の4階から8階です。

現施設と比べまして、広さは約2倍強、開館時間も30分延長して、22時00分までとなっております。

開館日も20日程度増加する予定です。

まず、市民会館おおみやのメインとなる大ホールの紹介からさせていただきます。まず、氷川参道の木々と緑をイメージした内装のホール、客席数は1,400席となっております。

商業、観光等の多様な分野と連携し、地域のにぎわいづくりに寄与するため、多目的に利用でき、商業ベースの興業等でも利用できる優れた音響と座席数のホールとなっております。開館イベントに出演されますピアニストの小山実稚恵氏からも、「優れた音響のホールである」との評価をいただきました。

ホールの内装イメージに合わせた緞帳も新たに制作させていただきました。

通常時は、氷川参道の木立をイメージしたデザインとなっております。また、暗転時、消灯されているときは、蓄光の糸によりまして、未来のまちの姿を想像させるデザインに変化をするという緞帳になっています。

続きまして、小ホールについてですけれども、小ホールは可動観覧席により、使用用途に応じて劇場形式と平土間形式に変化する多目的ホールと

なっております。劇場形式の場合、最大340席、また現市民会館おおみや小ホールの274席から大きく増やしました。

そして次に、新たに導入した機能ですが、4種類の機能、部屋を新たに導入しました。ピアノを設置している部屋もございまして、各種音楽の練習や、ミニコンサート、バレエやダンスなどにも軽運動にも利用できるものとなっております。

展示室では、可動壁や展示壁で広さを変えることができますので、自由に展示なども行えるようになっております。

その他、これまでの市民会館においても導入しておりました集会室、和室は機能を充実させておりますので、さらに様々な活動に御利用いただきたいと思っております。

次に、開館記念イベントを幾つか御紹介したいと思います。まず、4月3日日曜日には、宮崎駿監督作品の音楽を手がけられております久石譲氏を指揮者に迎えた、新日本フィルハーモニー交響楽団によるオーケストラによるコンサートを行います。

また、4月9日土曜日には、人気・実力ともに日本を代表するピアニストの小山実稚恵氏のスタインウェイピアノによるコンサートを行います。

小山さんは、学生時代に大宮に在住されておりました。また、このスタインウェイピアノ選定の際の試弾にも携わっていただいております。

続きまして、展示室では、4月1日開館後1か月の間、市内の文化芸術団体と協働で記念展示を行う予定です。

また、5月10日火曜日には、さいたま市民の日に併せ、歌舞伎公演を予定しております。演目は「口上」、「藤娘」、「連獅子」となっております。主な出演される俳優につきましては、中村鴈治郎さん、片岡愛之助さん、中村耆太郎さんです。いずれも、チケットは4月上旬より販売開始です。

いずれも現時点での予定ですので、詳細は決まり次第お知らせさせていただきます。

また、5月以降も定期的にも上質な文化芸術事業を実施してまいりますので、ぜひお楽しみいただきたいと思いますと思っております。

最後に、落成式と内覧会について御案内させていただきます。現在御案内のとおり、落成式と内覧会を予定しております。ぜひこの機会に皆様に

も御参加いただきたいと思っております。

新しい市民会館おおみやもこれまで以上に多くの皆様に御利用いただくとともに、上質な文化芸術事業を展開することで「大宮門街」との相乗効果でにぎわいを創出し、まちの発展に寄与する、長く愛される施設としていきたいと考えております。

## 市長発表：SUUMO住みたい街ランキング 2022首都圏版の結果について

議題としては以上でございますが、大宮に関する嬉しいニュースを発表させていただきます。先ほどSUUMO住みたい街ランキング2022首都圏版におきまして、大宮が3位、浦和が5位にランクインしたという情報が入ってまいりました。ここ数年不動でありましたトップ3に大宮がランクインするという事は、このランキング調査が始まってから初めてのことで、大変喜ばしく、また誇りに思っております。

また、浦和も過去最高の5位ということで、1つの自治体の複数エリアがベスト5にランクインしたということは、大変素晴らしいことだと思っております。

本市が住みやすいまちと市内外で評価いただいた結果だと感じているところです。

本市の人口は、現在毎年増加を続けており、先日発表になりました住民基本台帳による人口移動報告におきましても、令和3年中の転入超過数では全国第1位、特に0歳から14歳の転入超過数は、7年連続全国第1位でした。

また、交通の利便性の良さに加えて、豊かな自然と都市部が共生する住みやすいまちとして、子育て世代に選ばれていると考えられます。

しかしながら、最近、同様のランキング調査を見ますと、全体的に新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響があるのではないかと感じるところです。

今回の調査に満足せず、本市の魅力にさらに磨きをかける取組を推進し、さいたま市らしさを深化させていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

## 幹事社質問：10代の新型コロナウイルス感染症患者の死亡に関する市長の受け止め、今後の改善点や対応について

### ○ 産経新聞

ありがとうございました。

それでは、今月用意している幹事社質問なんですけれども、コロナ関連なので、ちょっとここで質問させていただきたいと思います。

先月の半ばだと思うんですけれども、さいたま市の10代の男子学生がコロナでお亡くなりになりました。老若男女問わず、命の尊さや重さは別に変わりはないと思いますが、さはさりながら驚きを持って、経緯なんかも含めて受け止めた方も多かったと思います。

この件について清水市長の受け止めに教えていただきたいのと、これにまつわるというか、今後の改善点、対策、対応について御説明いただければと思います。よろしくお願いします。

### ○ 市長

それでは、幹事社質問にお答えします。

今般、市内在住の10代の方が新型コロナウイルスに感染後、自宅療養中に症状が悪化し、救急搬送後にお亡くなりになる事案が発生しました。改めて、お亡くなりになられた方に心から御冥福をお祈りするとともに、御遺族の皆様に謹んでお悔やみを申し上げます。

このたびの件は、初回の救急要請時点では入院を要する緊急性が高い状況ではなく不搬送となり、翌日の容体悪化により救急搬送されるも、お亡くなりになった事案です。

救急要請以降の経緯を踏まえますと、保健所や救急隊、また懸命な治療に当たっていただきました医療機関におきましては、今般の長期化する感染拡大の影響により、限られた医療資源や制度の中で最大限の対応はしつつも、起きてしまった大変痛ましい事案であると受け止めております。

本市としては、今回の事案の発生を受けて、患者の発生状況を遅滞なく把握し、緊急対応が必要な事例に速やかに対応できるよう、医師会及び診療・検査を行う医療機関に対して、発生届の速やかな提出の徹底を文書で通知しました。

これまで以上に保健所、救急隊、医療機関との連携を密にし、患者情報等の共有や対応の迅速化を図ってまいりたいと考えております。

また、入院調整のしる手続や医療提供体制等につきましては、制度の見直しに関わることから、今後、埼玉県や医療関係者と連携し、よりよい制度となるよう引き続き取り組んでまいります。

さらに、最初に診察し、発生届を提出いただいた医療機関が引き続き協力医療機関として健康観察を行っていただくことも効果的であることから、今後とも協力医療機関との連携、協力体制を推進し、在宅療養者の支援体制のさらなる充実に努めてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○ 産経新聞

ありがとうございました。

これに関連して質問がある社、ございましたらお願いします。

### 幹事社質問に関する質問

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

10代男性の件ですけれども、県の入院調整本部のリスク判定が変更された中、1月19日に変更された後の事案で、なかなか難しい事案だったのかもしれないんですけれども、その結果にしても、入院するためには、医師の判断があれば入院できるという文言もありますので、結果お医者さんは一度も関与していない状況ですので、その辺の改善点というのは検討はできるんでしょうか。

○ 市長

さいたま市としては、コロナ患者の入院調整という視点から、保健所、それから県の入院調整をされている部署での対応とともに、救急搬送で出向いておりますので、もう一方で緊急性という視点からの対応もやらせていただいたところではあります。その中で、救急隊としてもその事態に合わせて医療機関にアプローチをし、そしてその後搬送したということですので、やれることはやったと感じております。

○ 埼玉新聞

医療機関に断られたということで、11か所目で受け入れられたということではあります。それも2次医療でしたけれども、現状の認識をお願いできますでしょうか、救急搬送の大変難しい状況だということではありますけれども。

○ 市長

現状としては、まず一つは、季節的に大変救急を要する患者さんが通常の一般の時期より非常に多い時期であるということ、それに併せて今回、第6波のコロナ感染者、オミクロン株での新規陽性者が非常に多くなっている状況において、そういったことなども重なって大変厳しい状況下にあ

ったと考えているところです。私たちとしても、さらに自宅療養されている方が安心して療養ができるように、サポート体制を、保健所、協力医療機関、診断をしていただいた医療機関などとも連携を取り、状況などを把握しながら、しっかりと対応できるように、今後もそういった連携強化については取り組んでいきたいと考えています。

## 議題 1 に関する質問

- 埼玉新聞 まん延防止が延長の見込みですけれども、大野知事は飲食店への制限について検討すべきではないかと政府に要望しているということですが、その受け止めをお願いします。
- 市長 昨日、埼玉県が、まん延防止等重点措置の延長を要請したと伺っております。現在、新規陽性者数は、ピーク時と比べると減少はしているものの、減少幅は緩やかで、本市でも、1週間で約6,000人の新規陽性者が確認されております。こうしたことから、感染の長期化、再拡大が懸念され、いましばらくの延長はやむを得ないと考えています。本市では、引き続き医療機関との協力連携体制を推進して、自宅療養者の健康観察等をしっかりと行っていくとともに、ワクチン接種の促進に全力で取り組んでまいりたいと考えております。
- また、大野知事からいわゆる飲食等に対するものについての見直しなどが提案されたと伺っております。現在第6波におきましては、先ほども御報告しましたけれども、特に10代、あるいは10歳以下という非常に若年層の感染者（の割合）が増えている状況下でございますので、そういった状況、あるいはオミクロン株の特性なども踏まえながら、十分に、まん延防止を延長する際により有効な手だてをしっかりと考えていくことの必要性ということで、御提言されたものではないかなと認識しています。
- 埼玉新聞 それは、妥当というか、そういうふうにしてほしいということでしょうか。
- 市長 飲食の場は、当然感染しやすいところがあるとは思いますが、やはり現在の状況下においては、もうちょっと違う視点での対応も必要になってくるのではないかとということもありますので、延長する際に、そういった現状の様々な症例、状況なども踏まえた対応をということでお話しされたものと認識をしておりますので、そういう意味では理解できるも

のと考えております。

- 産経新聞      それでは、その他何か別の質問ありましたら各社お願いします。

### その他：市内に拠点がある自動車関連会社のADRの申請について

- 朝日新聞      朝日新聞です。

さいたま市内に拠点があるマレリという自動車会社がADRの申請をされました。埼玉県内、さいたま市にも1次下請や2次下請の会社が多数あって、今後雇用がどうなるかというような問題もあります。このADRの申請についての市長の受け止めをお聞かせください。

- 市長      マレリは、さいたま市にとって最大規模の企業で、本社がある企業ですので、現在、大変注目しています。今回、ADRという手法を活用して再生していこうという取組だと伺っておりますので、再生に向けての第一歩を金融機関をはじめ関係者とも連携しながら進めていかれるものと認識しております。かなり大きな企業で、いろいろな取引先、あるいは市内経済への影響も大きくなると思いますので、その辺については順調に進んでいただくことを期待し、見守っていきたいと考えております。

- 朝日新聞      具体的に市として、雇用だとか、各下請の会社へのサポートというのは何か今お考えであるのでしょうか。

- 市長      ADRという手法でやることを今進めていらっしゃる中で、現時点で、何かそれに対してすぐやるということは考えておりません。ただ、今後の動向によって見守りながら、必要な地域経済へのマイナス面の影響をできるだけ緩やかにしていくための対策については、状況を見据えながら検討していきたいと考えております。

### その他：順天堂大学医学部附属病院の誘致について

- 東京新聞      東京新聞です。

県議会の答弁か何かで出たかと思うのですが、順天堂の浦和美園の病院について、大学側から県のほうに開院時期については1年半前倒ししたいという回答があったと聞いています。これについての市長の受け止めと、それから市のほうで土地を貸与するかどうかというような話もあったと思いますが、これが現時点で前倒しするのであれば積極的にという話になるのか、何か対応などがありましたら教えてください。

○ 市長 800床の開院時期について、変更申請で示されました事業スケジュールの令和12年3月から18か月間前倒しをして、令和10年9月に見直されたと聞いております。また、開院前の医師確保困難地域への医師派遣については、大学側の基本的な考え方のみが示されたので、改めて順天堂大学に令和4年度から医師派遣ができないかを確認しているところであると埼玉県からは聞いております。今後3月に開催を予定されていると聞いておりますが、埼玉県医療審議会におきまして、順天堂大学からの回答内容を踏まえて改めて審議をして、埼玉県へ答申されるという流れになっていますので、本市としては、今後の埼玉県医療審議会の議論や埼玉県の決定を踏まえて対応していきたいと考えております。

○ 東京新聞 市長としては、やっぱりできるだけ前倒しのほうが嬉しいということでしょうか。実際に昨年末に来られたときにもできるだけ早くというふうにおっしゃったというふうに聞いているんですが、この前倒し幅というのはどう受け止めますか。

○ 市長 できるだけ早く整備されることが望ましいということは申し上げてきております。この幅については、当然ハードを整備したりいろいろな状況下であり、物理的な状況もございますので、現時点でこれについて早いか遅いかというのは、状況が全て把握されているわけではありませんので、コメントは差し控えたいと思います。

### その他：ウクライナ情勢について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。  
何度もすみません。ウクライナ情勢に戻ってしまうのですけれども、ロシア、ウクライナの情勢で、さいたま市内に何か影響とか、経済的なものとかあるのかということと、プーチン大統領の核抑止力の話が出て、与野党の間で核シェアリングという話が出ていますけれども、その受け止めをお願いいたします。

○ 市長 さいたま市への特別な影響ということについては、申し上げられませんが、いわゆる外貨への影響であるとか、原材料費の値上げ、エネルギーの値上げなども想定されておりますので、さいたま市だけというよりは、世界的に、日本全体に及ぶいろいろな影響が想定されるのではないかと考えております。

それから、核シェアリングについては、基本的な日本の考え方として非核三原則がございますので、それを守っていくという考え方が基本であると思っておりますが、様々な議論がなされることについて特に否定するものではありません。

○ 埼玉新聞 議論を否定するつもりはないというのは、非核三原則も議論の対象だという意味ですか。

○ 市長 基本的にはそれを守るべきだと思っておりますが、議論そのものをしないほうが良いという考え方は持っていないということです。

### その他：武蔵浦和の義務教育学校について

○ 埼玉新聞 武蔵浦和学園の義務教育学校についてお聞きしたいのですが、先日の委員会でも議論が出ていましたけれども、教育委員会は市の戦略本部でああいう3校舎による義務教育学校を決めたんだと。3,600人規模という大規模だけれども、土地がなかったので仕方ないんだという趣旨だったんですけれども、これはこういうふうに進めていくということを市も決定したということで、改めてどうして、土地がないということなのかもしれないですけれども、推進していくのかというのをちょっと教えていただけますか。

○ 市長 この武蔵浦和の義務教育学校については、二つの要素があると思っております。一つは、以前から教育委員会において、この義務教育学校、小学校と中学校を一体的に教育する学校というものについて大変関心を寄せて、日本一の教育都市を目指すさいたま市としても、そういった義務教育学校というものの導入については検討されてきたところです。その中で、武蔵浦和地区が非常に今、子どもが大変多く集まっているエリアということで、現状の中で、学校環境の改善につながる取組として、教育委員会で、そういった視点から御提案いただいたものだと考えております。

さいたま市としては、単に学校があふれ過ぎてしまっているからということだけではなくて、この小学校と中学校と一体的な教育の中で子どもたちを育てていくことについて、非常にこういった教育は大変有効であるという教育委員会としての考え方なども踏まえまして、まさにその第1号をこの武蔵浦和で展開をしたいという考え方の中で議論させていただき、市全体としてもそういう形で進めてほしいということで了承したというもの

です。

- 埼玉新聞 本来義務教育学校というのは、児童生徒数が少なくなった中で検討するというので、委員会の中でも、片柳地区が大分減ってきたので、その要望が出ていたけれども、そこは検討されないで、巨大なマンモス学校ができてしまうのはどうなのかという指摘がありました。あと、文部科学省の規則によると、学級数がちょっと多いのではないかという指摘も出ました。その辺はいかがですか。

- 市長 義務教育学校の成立の仕方として、小学校、中学校の生徒数が減ってきたところにつくるという、そういった地域も当然あると思います。ただこの義務教育学校は、減ってきたところ、増えてきたところの対応だけのための目的でつくる学校ではないと考えております。小学校の時期と中学校の時期、この6年と3年という期間、これをもう少し弾力的に編成しながら取り組んでいくことへの非常に教育的な効果という視点から、教育委員会で御提案いただいたと認識しております。

その中で、さいたま市の最初のスタートが、今、武蔵浦和地区での義務教育学校となっておりますが、今後そういった武蔵浦和地区での義務教育学校の動向なども踏まえながら、今後またその他の地域におきましても、生徒が少ないから、あるいは多いからという理由だけではなくて、教育的な効果を鑑みながら導入されるべきものであると考えております。私たちとしては、そういった教育委員会の取組の状況などを踏まえながら検討していくことになると思います。

- 埼玉新聞 あと、1年生から4年生が通う校舎が2つあって、交通量も多い中で、登校ですか、先頭に立つのが4年生という、ちょっと不安だという声もあるんですが、その辺はいかがですか。

- 市長 通学の仕方は、おそらく新たな試みになりますので、細かい点でいろいろ課題になること、あるいは不安に思われていることが多々あると思っています。そういったことについては、今後、教育委員会で、地域の皆さん、保護者の皆さん、義務教育学校をつくる学校の最前線に立つ皆さんとしっかりと意見交換をし、改善しながら、あるいは十分配慮しながら検討を進めていくことが必要だと考えております。

- 埼玉新聞 パブリックコメントでだいぶこの件が指摘されていて、今、意見交換を

しながらということだったんですけれども、意見交換が全くないじゃないかという指摘がたくさん出ていましたけれども、その点はいかがですか。

- 市長 総合振興計画のパブリックコメントについては、二つの視点からのコメントがあったと認識しております。義務教育学校そのものについての御意見と、それから沼影のプールが義務教育学校をつくることによってなくなってしまうことへの御意見と、大きくは二つあったと考えております。

前者の義務教育学校の中身についての御意見については、教育委員会としてこれをどういうふうに展開されるのかについて、できるだけ分かりやすく地域の皆様、保護者の皆様に段階を追って説明していただくことが必要だと考えておりますし、また併せて沼影プールがなくなることについては、長年活用してきたレジャープールである沼影プール、それからその中の一にある室内プールを活用されている皆さんの声として私たちは受け止めております。

そういった皆さんの声をしっかり受け止め、学校を整備すると同時にスポーツ施設も整備する予定ですので、そのスケジュール感と市民の皆さんの声などを踏まえながら、十分にそれらに対応できるような手法、やり方についても、現在、検討しながら進めさせていただこうと。そういったことについても御理解をいただこうと考えております。

説明が十分まだ足りてないところがあるかと思しますので、引き続きしっかりと説明をしていきたいと考えております。

- 産経新聞 その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
では、お返しします。

- 進行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回開催は3月17日木曜日午後1時半からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時18分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。